

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

No. 652 2022年 2月号 1部60円 友の会会員は会費に含まれています 発行 東京勤労者医療会代々木病院 院長 河邊 博正 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7 TEL 03(3404)7661 http://www.tokyo-kinikai.com/yoyogi

誰もが自分らしく生きられる明日に

千駄ヶ谷ブロックプレ看護介護活動交流集会



看護介護活動交流集会。演題発表を熱心に聞く参加者

12月4日、代々木病院で「第23回千駄ヶ谷ブロック プレ看護介護活動交流集会」を開催し約30名が参加し看護・介護活動について発表、意見交流を行いました。交流集会のスローガンでは「誰もが自分らしく生きられる明日に」を命に寄り添うおもいよ届け」と掲げられ、看護・介護活動を通して、患者さんが「自分らしく生きられる」よう多職種によるチームケアの事例が多く発表されました。5階障害者病棟は「全失語の患者さんが意志を表出できるための関わり」を発表しました。発表の一部をご紹介します。(編集部)

80代男性、脳梗塞による失語症。リハビリ目的で入院

5階障害者病棟は、脳梗塞や脳出血後、または難病や骨折などの治療後にリハビリテーションを行うための病棟です。Aさんは80歳の男性で、妻に先立たれ、独り暮らしでした。子どもは無く、4人姉弟の長男で、東京に弟さんがいますが疎遠で交流はありませんでした。2021年4月、駅で改札にお金を入れる行動

があったため、救急搬送され入院となり、心原性脳梗塞と診断されました。失語症・嚥下障害・構音障害・高次脳機能障害があり、5月に胃瘻を造設しました。7月にリハビリ目的で代々木病院へ転院となりました。

入院20日頃にはケア時に布団を被って拒否することもありました。事前に声かけや説明をする

意思疎通が困難。検査やケアを拒否

入院当初は拒否や抵抗が強く暴力行為も見られたため、コミュニケーションや声かけに対する理解は難しいと思われ抑制を行っていましたが、事前の声かけ、説明を継続することで徐々にケアの拒否が減ってきたことから、Aさんの理解力が保たれていることがわかり、抑制を徐々に解除することができました。患者さん本人への意志確認、訴えへの傾聴

入院時はベッド上で、終日オムツ・尿道カテーテルを挿入、右麻痺は軽度、全失語による意思疎通が困難であり、簡潔明瞭に伝えると理解を得られたがムラがありました。血中酸素濃度の低下がありましたが、拒否が強く検査・酸素吸入が行えませんでした。話もできず、筆談もほとんどできない状態でした。

事前の声かけと説明で徐々に協力的に

「意思表示ができて円滑にコミュニケーション」を看護目標に

その頃のAさんはスタッフの声かけに対し、ある程度理解はあるものの、発語はほとんどありませんでした。Aさんは

今後施設入所予定で、今後のこと考えたとき意思表示できることが大切と考え、看護目標を「意思表示ができて円滑にコミュニケーション」ができて

患者さん本人へ 意志確認、訴えへの傾聴

事例発表を行う代々木病院5階障害者病棟の看護師



最期に発表者から「Aさんの発語状況の大きな変化までは至らなかったものの、意志の表出が出来るようになり、日常生活動作も向上しました。Aさんとの関わりの中で患者さんが自分らしく生活していくために必要な関わりや、患者さん本人を尊重していく看護について改めて考えることが出来ました。今後の看護活動に活かしていきたい」と抱負が語られました。

「意思表示ができて円滑にコミュニケーション」を看護目標に

その頃のAさんはスタッフの声かけに対し、ある程度理解はあるものの、発語はほとんどありませんでした。Aさんは

患者さん本人へ 意志確認、訴えへの傾聴

千駄の萱

昨年一月二日に発効された核兵器禁止条約は、昨年末にペルーが批准し五九ヶ国に、政府の署名した国は八六へと広がっています。残念ながら日本政府は未だ署名・批准をしていません。この条約が世界に与える影響の大きさを物語る出来事があります。先月三日、核兵器を保有する米国、英国、フランス、中国、ロシアの五ヶ国が「核保有国五ヶ国のリーダーによる、核戦争を防ぎ、軍拡競争を避けることについての共同声明」を発表しました。そこには「核戦争に勝者はなく、決してその戦いはしてはならないことを確認する」として「核不拡散条約(NPT)の義務を果たし、今後も二国間、多国間の外交的アプローチを引き続き模索する」としています。この「声明」が今までのものと違うのは核兵器禁止条約への非難の言葉がなくなったことです。核兵器禁止条約が発効してから一年、批准国が次々と増えるなかで、この世論を無視できない状況になっているのでしよう。歴史は一直線には進まないにしても、着実に核廃絶に向けて動いていることを励みにして運動を進めていきたいと思います。(み)